

アルゼンチン選抜大健闘
女子ブラインドサッカー国際親善試合

世界一の、次にいく。
女子日本代表 vs
女子アルゼンチン選抜

ブラインドサッカー国際親善試合 | 2018.2.24[土] @サイデン化学アリーナ
さいたま市ノーマライゼーションカップ | OPEN 10:30 / KICKOFF 14:00 入場無料・入退場自由

さいたま市
ノーマライゼーションカップ

主催:  さいたま市  特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会



2月24日(土)、アルゼンチン選抜 vs 日本代表の女子ブラインドサッカー親善試合が行われ、アルヘンティーナたちが大健闘しました。

国内初の国際親善試合として、さいたま市総合記念体育館(サイデン化学アリーナ)で開催され、観客1,007人とブラインドサッカー試合として史上2番目の大観衆となりました。立ち上がりの前半4分にショアナ・アギラール選手(19才)が先制点を決め、続く5分にも同選手が2点目と、アルゼンチン選抜が圧倒する試合展開でした。

そこで日本のエース菊島宙選手(15才)を投入されました。同選手は男性チームでも活躍する逸材で、立て続けに得点を重ね日本が逆転しました。その後も菊島選手が得点を重ね、合計6得点とダブルハットトリックを達成しました。観客からは思わず、「女マラドーナ」との歓声が聞こえる圧倒的ボールコントロールの中学三年生です。

アルゼンチンも後半追い上げ、1点を返しショアナ・アギラール選手が全得点(ハットトリック)を挙げました。試合は7-3で日本の勝利でした。



ジョアナ・アギラール(9) シュート



4枚の壁で防御を固めるアルゼンチン

アルゼンチンは、コルドバチームの選手を中心にアギラール選手らが加わった選抜チームです。彼女は100メートル走でも国際的に活躍しています。

試合後の表彰式で、MIP (Most Important Player) はアギラール選手が獲得しました。インタビューでハットトリックを称えられた同選手は、「私ひとりで成し遂げたシュートでなく、フィールドプレーヤー、キーパー、ガイド、コーチ、監督、支援をしていただく皆さんがいての達成です」とコメント。1,000人を超える観衆から満場の拍手でした。



表彰式でのアルゼンチンチーム



MIP ジョアンナ・アギラール



MVP 菊島選手インタビュー



さいたまのタンゴダンス教室の皆さん

会場には、当協会が観戦を呼び掛けたタンゴ愛好家なども多数来られていました。中でも早々と来場し大きなアルゼンチン国旗を掲げて観客席中央に陣取ったさいたま新都心と浦和のタンゴダンス教室の皆さんは、遠来のアルゼンチンチームに熱い声援を送り続けていました。

当協会からは寺本常務理事他役員と家族などが観戦、両国親善に相応しい好試合に大いに魅了され、沢山の拍手を送りました。

【ブラインドサッカー】

20 x 40メートルのピッチで、全盲フィールドプレーヤーが4人、ゴールキーパーは視力に問題のない晴眼者または弱視者で1チーム5人のプレーヤーです。また敵陣ゴールの裏に「ガイド(コーラー)」と呼ばれる役割が、攻めている場面でゴールの位置と距離、角度、

シュートのタイミングなどを声でプレイヤーに伝えます。視覚障がい者と健常者が力を合わせてプレーするため、「音」と「声」のコミュニケーションで試合が成り立っています。試合時間は20分ハーフで行われます。

ボールが転がると音が出て、全盲の選手たちもボールの位置や転がりわかります。フィールドプレイヤーはボールを持った相手に向かって行く時に、“V o y”と声を出さなければなりません。選手の実在を知らせ、危険な衝突を避けるためのルールです。

(文責:当協会常務理事 保坂庄司、業務執行理事 木村敏夫)